

CGRP関連抗体薬3製剤の有用性の比較

Efficacy Comparison of Three CGRP-related Antibody Agents

大島 聡人¹, 日暮 雅一², 高瀬 創¹

¹横浜市立大学大学院医学研究科脳神経外科学, ²ほどがや脳神経外科クリニック

【背景】片頭痛の新規予防薬としてCGRP関連抗体薬（CGRP製剤）が注目されている。本邦で使用可能なCGRP製剤3製剤：ガルカネズマブ（G群）、フレマネズマブ（F群）、エレヌマブ（E群）の3製剤間の有用性を日本人で比較した文献報告は未だなされていないため、本研究で比較検討を行った。

【方法】単独施設、後方視的観察研究。頭痛の生活支障度はHIT-6 scoreで評価した。2021年4月の薬事承認以降、3製剤を投与した患者は257名（G:141, F:50, E:66）。そのうち、3回以上投与され、ベースラインおよび各投与後のHIT-6 scoreを追跡可能な患者131名（G:76, F:29, E:26）を解析対象とした。3群間の比較はKruskal-Wallis検定で行い、両側検定で $p < 0.05$ を有意とした。

【結果】平均年齢43歳、女性86%。各群のHIT-6 scoreのベースライン、3ヶ月後、変化量は順に以下の通りであった：G群：64.6, 55.8, -8.8；F群：66.2, 55.2, -10.0；E群：63.5, 57.1, -6.5。変化量は3群間で有意差を認めなかった($p=0.12$)。ただし、F群はE群と比較してベースラインのscoreが有意に高かった($p=0.02$)。

【考察】今回のpreliminaryな検討では、3製剤は同等の頭痛インパクト減少効果が示された。海外の少数の報告では3製剤の有効性は同等と言われているが、日本人での検証が必要である。本患者群で、トリプタン製剤の有効性、body mass indexなどの背景も考慮し、頭痛日数のアウトカムを含めた解析を追加する予定である。